

Topics

1市2町広域連携バス「ゆうがおバス」実証運行について（栃木県下野市安全安心課）

栃木県下野市、上三川町及び壬生町の1市2町は、東京都心から80km圏内にあり、圏域内に2つの大学病院、グローバル企業の工場及び多彩な歴史文化遺産を有する等、豊かな地域資源に恵まれ、地理的なまとまりがある自治体です。

しかしながら、東京圏や県都・宇都宮市とは、下野市及び上三川町ではJR宇都宮線とつながり、壬生町では東武宇都宮線とつながるといった優位性がある一方で、これら鉄道間を結ぶ、東西公共交通がありませんでした。

そこで、各市町が有する豊かな地域資源を連携し、圏域全体の発展に結び付けるため、令和元年10月より1市2町のエリア及びJR宇都宮線と東武宇都宮線を東西につなぐ広域連携バス「ゆうがおバス」の3年間の実証運行を開始しました。



記事はこちら

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/2009-1sougoukoutsu.pdf>

総合交通体系グループだより

◆自治体の総合的な交通計画の公表情報（R2.3～R2.8）（国土交通省 総合政策局 総務課）

令和2年3月20日～令和2年8月31日の間に、ウェブサイトにおいて公表された自治体の総合的な交通に係る計画です。自地域における計画策定等の参考にして頂ければ幸いです。

参考情報はこちら

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/2009-2sougoukoutsu.pdf>

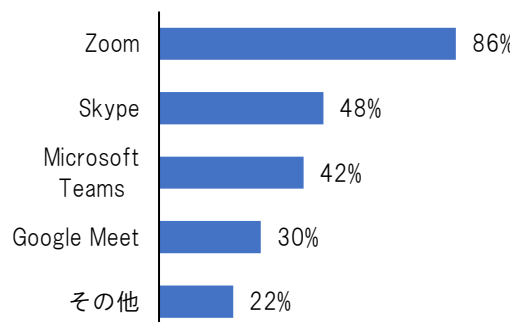
◆総合的交通基盤整備連絡会議について（国土交通省 総合政策局 総務課）

例年、中央合同庁舎で総合的交通基盤整備連絡会議を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を踏まえ、今年度は3密を避けた開催方法を検討しています。

地方公共団体を対象に「オンライン会議等の設備・環境に関するアンケート」を実施したところ、多くの地方公共団体でオンライン会議の設備・環境が整っていることが分かりました。

現在、アンケート結果を踏まえ、オンラインでの開催を検討しており、決まり次第、ご案内いたします。

利用可能なオンライン会議システム



(n=786)

(オンライン会議等の設備・環境に関するアンケート調査結果)

掲示板

◆地域公共交通トリセツ（地域公共交通のトリセツ編集会議）

地域公共交通の担当者や事業者の皆さんに、必要とされる知識や考え方をわかりやすく提供するウェブサイト「地域公共交通トリセツ」を作成しました。

地域公共交通の計画の策定・改定や運行を改善したいという行政・交通事業者・コンサルタント・学識経験者・NPO・地域住民などの皆さんに、わかりやすいテキスト＝処方箋を提供することが目的です。

是非、ご興味ある方はご覧ください。



ウェブサイトはこちら

<https://text.odekake.co.jp/>

コラム

◆総合交通体系グループのメンバー紹介

本メールマガジンを発行する国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系グループ）のメンバーを紹介したいと思います。

第1回は、グループのリーダーである後藤祐介政策企画官です。

“宇宙”や“通信”を経験し、ニューノーマル時代の交通を。

はじめまして。私は今から20年前、総務省に入省し、これまで通信や放送、宇宙開発、地方行政などの業務に従事してきました。直近では、コロナ禍でのマイナンバーカードを活用した特別定額給付金事務など、地方行政の効率化や課題解決業務を推進してきました。

今年7月から、地域の様々な交通課題を解決する国土交通省の本部署に配属となりました。ドライブが趣味で、数年前には出身地の青森まで700キロを自家用車で帰省。東北自動車道をひたすら約10時間一本道という長旅でしたが、エコカーでほぼ給油なしで東京～青森間を完走。そのとき、東日本大震災時のことが浮かびました。

当時、交通通信網が麻痺、燃料供給も一時停滞し、私たちは小さい国土の中で極度に移動を制限された環境下に閉じ込められました。公共交通や個別交通の役割分担を含めた交通体系のあり方について真剣な議論が開始され、ある意味で交通の変革期に直面しました。そして、コロナ禍は第二のシンギュラリティとも言えます。

北欧では、自動車産業の行き詰まりを迎え、公共交通機能をどのように有効に組み合わせ活用するかという観点からMaaSが進展したと聞いています。我が国においては、鉄道や航空、バスなどの公共交通と、自家用車などの個別交通がほどよく調和していますが、多様な交通網をどのように融合させていくかというのは、コロナ禍や少子高齢化を抱える私たちにとっても重要な課題です。

amazonや出前館、uberなどの電子取引が主流となり、米国spaceXがニューヨーク・上海間を39分で輸送するサブオービタル宇宙船構想（なんと発射場まで行く時間のほうが長い！）を提唱するこれからの時代には、交通手段は単なる個人の移動ではなく競争力強化の基盤に繋がるものです。ニューノーマル時代における地域交通のあり方について、自治体の皆様との対話を重ねながら、課題解決への道しるべを見つけないといけません。



I n f o m a t i o n

◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

本メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえ、内容の充実を図りたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなどがございましたら、下記連絡先に頂けると幸いです。

E-mail : hqt-soukou01@mlit.go.jp

◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！

当課では、情報提供頂いた取組をメールマガジンで紹介することで、各地域にノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取組について情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。また、イベント案内や、勉強会、講演会、セミナーなどをご紹介頂ければ、当メールマガジンにてご案内させていただきます。主催者の方でも、耳より情報でも結構です。(情報提供はこちらまで hqt-soukou01@mlit.go.jp)

【情報提供頂く内容】

・地域の交通拠点の形成・再編による地域交通の維持・活性化の取組 など

総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組みを幅広く紹介することを目的として発行しているメールマガジンであり、主な購読者は都道府県、市町村等の交通施策担当者です。

当メールマガジンで紹介させていただく記事は、執筆者が任意の協力のもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

《総合交通メールマガジンのバックナンバーはこちら↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html

また、当メールマガジン以外でも、公共交通政策全般について、国民の皆様にも広く関心を持って頂くためのメールマガジンを配信しております。ご興味のある方は、以下のアドレスから配信のご登録をお願いします。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

<送信先の変更申請について>

メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更を申請下さい。なお、他部署でも楽しんで頂けるよう努めて参りますので、引き続きのご購読も歓迎しております。変更内容については、下記連絡先までお願いします。

E-mail : hqt-soukou01@mlit.go.jp

問い合わせ先

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系グループ） 麻生

TEL : 03-5253-8111（内線53-113） FAX : 03-5253-1675

E-mail : hqt-soukou01@mlit.go.jp URL : <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

※ 2019年2月28日より総合交通メールマガジンのメールアドレスが変更されました